



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会福祉援助者の「貧困観」：母子生活支援施設職員への調査結果
Author(s)	岩田, 美香
Citation	教育福祉研究, 14, 69-80
Issue Date	2008-03-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39612
Type	departmental bulletin paper
File Information	JESW14_006.pdf



社会福祉援助者の「貧困観」 —母子生活支援施設職員への調査結果—

岩 田 美 香

1. 調査の概要

(1) 調査の目的と位置づけ

本調査は、日本人が抱く「貧困」に対する意識や考え方を明らかにすることを目的とした、2004～2007年文部科学省科学研究費補助金「現代日本の『貧困観』に関する実証的研究—アメリカの研究動向との対比の中で（研究代表：青木紀）」の一部分に位置している。これまで、社会意識としての日本人一般の貧困観については青木(2006、2007a、2007b)が、当事者としてのシングルマザーの貧困観については岩田(2007a、2007b、2007c)が報告してきた。本稿では、社会福祉援助者の貧困観について、「援助を受ける者」と「援助する者」との比較による基礎資料を提供するために、前出の当事者としてのシングルマザーが入所している母子生活支援施設の職員への調査をもとに報告する。なお分析においては、勤労者層の貧困観も含めて比較考察していく。

(2) 調査の手続き

先にシングルマザーの貧困観調査を実施したA・B・C地域における母子生活支援施設のうち、「施設職員への調査」にも協力できるという回答を得られた26施設215名に対してアンケート用紙を配布し、郵送により165名から回答を得た（回収率76.7%）。なお、A地域とC地域は一都道府県単位であり、B地域は複数の県を含むブロック単位である。調査期間は2007年6月～7月である。

(3) 調査内容

被調査者の属性（年齢・学歴・勤務形態・世帯年収・健康状態）、貧困一般のイメージ、貧困にある生活のイメージ、身近な問題としての貧困、貧

困の経験、貧困の原因、貧困から抜け出すための方法、生活保護制度に関する評価など。

2. 調査結果

(1) 被調査者の属性

回答を得られた援助者の基本属性は、性別では男性21.2%、女性78.2%、無回答0.6%であり、年齢構成では20歳代～50歳代までと幅が広く（表1）、学歴では短大・専門学校が多く、それに大卒を加えると8割になる（表2）。また、勤務形態も7割以上が常勤であり（表3）、世帯年収も「わ

表1 年齢構成

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)	勤労者 (N=854人)
～20歳	0.0%	0.5%	0.2%
20～29歳	24.8%	12.3%	12.1%
30～39歳	20.0%	52.5%	35.7%
40～49歳	20.0%	28.9%	30.0%
50～59歳	26.1%	4.9%	19.0%
60歳～	8.5%	0.0%	2.1%
N. A.	0.6%	1.0%	0.9%

表2 最終学歴

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)	勤労者 (N=854人)
中学卒業	0.6%	8.8%	2.3%
高校中退	0.6%	12.7%	
高校卒業	14.5%	59.8%	56.1%
短大・専門学校卒業	60.6%	17.2%	13.3%
大学卒業	21.2%	1.0%	25.5%
大学院修了	1.8%	0.0%	1.5%
N. A.	0.6%	0.5%	1.2%

※「勤労者」へのアンケートには、「高校中退」の回答設定がされていない

表3 勤務形態

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)
常勤雇用	75.8%	17.6%
パート・契約・フリーター	21.2%	59.8%
無職	0.0%	16.7%
その他	1.2%	4.9%
N. A.	1.8%	1.0%

◎表3の「その他」の回答

- ・用務員
- ・自由業的非常勤
- ・臨時職員
- ・いったん退職して2年間の嘱託雇用。週30時間。

からない」が18.8%と多いが、「500～600万円台」で2割、「700～800万円台」・「300万円台」がそれぞれ1割で、児童福祉施設職員としては比較的安定している層が回答している(表4)。なお、ここでは「世帯年収」で質問しているため、若い職員にとっては、同居している親の年収を合算して回答している場合もあることを考慮しなければならない。住居形態についても、「持ち家+持ちマンション」の割合が66.7%に達しており、回答者を扶養してくれている者と同居している可能性は高い。健康状態についても、問題を抱えているものは少ない(表5)。

(2) 貧困のイメージと貧困の具体的な生活

「貧困」ということばから一般的にイメージされ

表4 世帯収入

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)	勤労者 (N=854人)
～100万円未満	0.0%	29.4%	0.0%
100～200万円未満	4.8%	46.6%	0.8%
200～299万円未満	9.1%	5.9%	3.4%
300～399万円未満	12.7%	1.5%	11.8%
400～499万円未満	9.1%	1.5%	16.9%
500～699万円未満	20.0%	0.0%	35.1%
700～999万円未満	11.5%	0.0%	20.3%
1000～1500万円未満	4.8%	0.0%	6.7%
1500万円以上	2.4%	0.0%	0.5%
答えたくない	6.7%	8.3%	3.4%
わからない	18.8%	5.9%	0.0%
N. A.	0.0%	1.0%	1.2%

るものは、「遠く(途上国・戦災国)」や「昔(戦前・敗戦後)」の生活であり(表6)、これらは他のグループにおける結果と同様である。ただし、「生活保護受給者の生活」や「過去や現在の自分自身の生活」を「貧困である」とみる割合は他のグループよりも低い。

具体的な生活場面(表7)においても、援助者の「貧困である」と回答する割合は、全ての項目でシングルマザーよりも低いだけではなく、多くの項目において勤労者の回答よりも低くなっており、貧困に対する見方は厳しい。しかし、「社会関係」をたずねている問(～ヌ)の項目では、集中して援助者の回答が(わずかではあるが)上回っており、貧困であることと社会関係の難しさとの関連については、一般の勤労者よりも認識している。

(3) 身近な問題としての貧困

貧困を自分の身近な問題として考えたときには、どのようにとらえられるのであろうか。親戚や友人などで「貧困」な状態にある人は少なく(表8)、自分と自分の家族についても「貧困にある」とも「貧困に近い」とも思っておらず、「貧困ではない」が89.1%にのぼっている(表9)。貧困ということばを使わずに、自分が位置する階層についてたずねても、「分類されたくない」が27.9%とシングルマザーや勤労者よりも高い一方で、選択した階層は「中流」と「中の下」で半数を占め、「下」は1.8%と勤労者よりも低い(表10)。

それらを裏付けるように、貧困な生活の経験も、

表5 健康状態

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)
とてもよい	13.9%	10.3%
よい	32.1%	20.6%
ふつう	47.9%	38.2%
あまりよくない	5.5%	22.1%
とてもよくない	0.6%	8.3%
N. A.	0.0%	0.5%

※「勤労者」へのアンケートには、「健康状態」の設問が設定されていない

表6 貧困のイメージ

	援助者(N=165人)			シングルマザー(N=204人)			勤労者(N=854人)		
	はい	いいえ	N.A.	はい	いいえ	N.A.	はい	いいえ	N.A.
ア) 戦前や敗戦直後にみられた日本の生活	79.4%	19.4%	1.2%	70.1%	21.6%	8.3%	69.0%	27.8%	3.3%
イ) ホームレスの人々の生活	59.4%	38.2%	2.4%	55.4%	36.8%	7.8%	53.0%	42.6%	4.3%
ウ) 生活保護世帯の生活	13.3%	84.2%	2.4%	26.0%	62.7%	11.3%	36.4%	59.0%	4.6%
エ) テレビや新聞等で知る途上国や戦災国の生活	82.4%	14.5%	3.0%	82.8%	10.3%	6.9%	85.6%	11.6%	2.8%
オ) 過去あるいは現在の自分自身の生活	9.1%	87.9%	3.0%	43.1%	47.1%	9.8%	16.5%	78.2%	5.3%
カ) 「清貧の思想」「名もなく貧しく美しく」といった生き方	6.1%	91.5%	2.4%	12.7%	74.0%	13.2%	7.5%	86.4%	6.1%

◎表6「その他」の回答

- ・ワーキングプア、4 畳半。
- ・望んで、の貧困もあるのでは？
- ・私にとって貧困という言葉は存在しません!!
- ・年収が200 万前後の生活。国民年金のみの生活。リストラ、フリーター、年金を受けられない生活。
- ・国や政府の怠慢な管理下にある我々一般国民（中流階級以下）の生活。常に将来の心配（年金のことなど）をし続けなければならないような状態をつくった日本政府のやり方は、必ず貧困を招くと思う。
- ・母子家庭の母、虐待する家庭、犯罪者の家族。
- ・気持ちにゆとりのない状態。
- ・法律・生活の手段を知らない者。
- ・心が貧しい（考え方が…という意味で）。
- ・お金がなくて食物が手に入らない状態。
- ・社会福祉のサービスも受けられず、生活費がないなどの日々の暮らしにも困る状態が継続していること。
- ・食べるものが無い。努力しても食が十分でない。
- ・戦後10 年くらいの近所の例として、父子家庭・収入不定期・酒乱・家にいる時間少ない・子供に威圧的・近所の人達の協力をこぼむ、又、近所や親せきの人も協力の仕方わからず、男子はいつも寒そうに一人ぼっちだった。学校には行っていたが、集団就職し、東京で若くして結婚・離婚をくり返していた。
- ・老夫婦の生活。餓死する人がいる（豊食と言われている時代なのに）。
- ・思いやりのない生活。心にゆとりのない生活。
- ・どこまでの事を貧困と考えるか。
- ・自分の意思ではどうしようもない社会・国の状況下にあった場合。
- ・毎日の生活にお金がないこと。
- ・ニートの方、インターネットカフェで過す若者等。
- ・金銭的な貧困よりは心の貧困を強く感じる。
- ・今の私のまわりには貧困は見えてこない。子どもの頃は貧困だった。
- ・まずは経済的なことを考えます。しかし、現代において「貧困」と言うとき、心のありようのことについても、考える点があります。
- ・必ずしも全世帯が貧困とはいえない。

ほとんどの回答者が経験しておらず(表11)、シングルマザーのそれとは対照的である。その結果、自分と自分の家族に関する将来への貧困の心配も「あまりない」+「まったくない」が53.4%と半数を超えている(表12)。

しかし貧困は経験していなくとも、「自分が貧困になった時の気持ち」は、「わからない」の回答が若干高いながらも、他のグループと同様の傾向にある(表13)。また、「その他」の自由回答では、貧困になった場合に、どのように対処していくかといった方略の回答が多くみられた。

(4) 貧困の原因と貧困から抜け出す方法

そもそも、貧困がなぜ生じると思うのかについて、総合的要因では「社会的不平等・不公正」に原因があると考える者が半数いる一方で、貧困は「社会発展のために避けられない現象」という割合が19.4%と、他のグループよりも高くなっている(表14)。これは、現代の日本社会について、「格差が広がっている」という意見が他のグループよりも低く、「格差が小さくなっている」・「どちらともいえない」の割合が相対的に高くなっている(表15)という認識とも関連しているのかもしれ

表7 現代社会における貧困の具体的な状態

	援助者 (N=165人)			シングルマザー (N=204人)			勤労者 (N=854人)		
	貧困で ある	貧困では ない	N.A.	貧困で ある	貧困では ない	N.A.	貧困で ある	貧困では ない	N.A.
ア) 水道や電気及びガスが利用できない	61.8%	30.9%	6.7%	76.5%	14.7%	8.3%	54.8%	41.9%	2.2%
イ) 住宅に暖房設備がない	45.5%	45.5%	9.1%	57.8%	28.4%	13.7%	51.6%	43.8%	3.5%
ウ) 住宅にお風呂がない	22.4%	67.3%	9.1%	47.1%	39.7%	12.7%	22.8%	74.4%	1.9%
エ) 人生の大半を施設で生活している	5.5%	75.2%	19.4%	18.6%	52.0%	28.4%	13.9%	63.6%	21.1%
オ) 健康的な食生活ができない	51.5%	32.7%	13.9%	62.3%	23.5%	13.7%	46.7%	47.1%	5.2%
カ) 家族に利用できる車がない	1.8%	92.1%	6.1%	10.8%	78.4%	10.8%	6.4%	89.7%	2.7%
キ) 1年に1度のレジャーや旅行もできないほど金銭的余裕がない	13.3%	77.0%	9.7%	33.8%	52.5%	12.7%	24.1%	70.6%	4.3%
ク) 緊急時に必要な最低限の貯蓄がない	30.3%	53.3%	15.2%	52.9%	31.9%	14.7%	36.3%	56.0%	6.3%
ケ) サラ金などからお金を借りて生活している	22.4%	52.7%	24.2%	37.7%	42.6%	19.6%	14.8%	71.0%	13.0%
コ) 医療機関に必要なときにかかれな	67.3%	18.2%	13.3%	80.4%	9.3%	10.3%	72.5%	21.4%	5.2%
サ) 社会福祉サービスを必要ときに受けられない	29.7%	35.8%	32.7%	46.6%	27.5%	25.0%	42.0%	45.9%	10.7%
シ) 大きな身体的・精神的・知的障害をもって生活している	1.8%	84.8%	13.3%	14.7%	62.7%	22.1%	8.2%	76.0%	14.5%
ス) 若者が高校を卒業していない	3.6%	85.5%	10.9%	9.8%	70.6%	19.1%	4.1%	91.1%	3.6%
セ) 読み書きに不自由がある	18.8%	70.3%	10.9%	24.0%	56.4%	18.6%	23.9%	65.7%	9.4%
ソ) 安定した仕事を持っていない	13.9%	73.3%	12.7%	27.0%	58.3%	14.2%	13.7%	80.2%	4.7%
タ) 生活保護で生活している	9.7%	77.6%	12.7%	20.6%	62.3%	16.7%	27.6%	57.1%	13.7%
チ) となり近所とよい関係にない	9.7%	73.9%	16.4%	15.7%	59.8%	24.0%	8.0%	80.8%	10.1%
ツ) 友人や家族と外出を楽しむ機会がない	11.5%	76.4%	12.1%	23.5%	56.4%	19.1%	14.2%	77.4%	7.3%
テ) 生きがいを感じられない	24.2%	61.2%	13.9%	32.4%	52.5%	12.7%	23.4%	64.2%	11.1%
ト) 他人や社会に役立つことができない	12.1%	74.5%	12.7%	16.7%	60.8%	21.6%	10.7%	78.7%	9.5%
ナ) 他者や社会から認められていない	18.8%	65.5%	15.2%	21.1%	55.9%	22.1%	13.9%	73.1%	11.7%
ニ) 社会あるいは地域とほとんどつながりがない	20.6%	62.4%	15.8%	22.1%	57.8%	18.6%	15.7%	72.6%	10.8%
ヌ) 他人から言われたままに生きている	16.4%	61.8%	20.6%	27.9%	51.5%	18.6%	15.1%	67.1%	16.5%
ネ) 外国人が不法滞在者として生活している	23.0%	43.0%	32.7%	27.5%	39.2%	31.9%	15.5%	63.5%	19.9%

※勤労者への「問シ」は、「大きな身体的障害をもって生活している」である

◎表7の欄外記入

- ・サ)：情報提供のやり方が悪く知られていない、知らされていらないから利用できない。
- ・ス)：必ずしも金銭的理由でという人よりも、それ以外の理由でという人のほうが多い。
- ・ソ)：定職につかず、自由を求める人多い。
- ・タ)：逆に有意義に生活している人あり。
- ・チ)：対人関係が作りにくい人多し。
- ・ト)：逆に、社会に迷惑をかけていないければ良いと思う。
- ・ニ)：地域の方が貧困であるとみなした人をつまはじにいく。
- ・解答に「わからない」が多いのは、敢えてそのようにしている人がいて、それはその人の生き方です。中には水道・電気が止められても高価な買い物やめられない人も。「テ」と「ト」が「貧困である」なのはやはり精神的に貧困さを感じます。人として生まれたのならたとえ赤ちゃんで人も人を喜ばせる存在だと思うからです。

表8 身近な「貧困にある人々」の存在

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)	勤労者 (N=854人)
たくさんいる	3.0%	7.8%	4.4%
多少いる	21.2%	39.2%	31.9%
ほとんどいない	30.3%	13.7%	53.6%
いない	36.4%	25.0%	
わからない	7.9%	14.2%	9.0%
N. A.	1.2%	0.0%	1.1%

※「勤労者」へのアンケートには、「いない」の回答設定がされていない

表10 帰属階層

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)	勤労者 (N=854人)
上	1.2%	1.5%	0.4%
中の上	4.2%	0.0%	5.0%
中流	33.3%	7.8%	36.2%
中の下	23.6%	18.1%	30.6%
下	1.8%	33.8%	7.3%
そのように分類したくない	27.9%	23.0%	12.3%
わからない	6.7%	14.2%	6.9%
N. A.	1.2%	1.5%	1.4%

表9 自分と自分の家族の貧困

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)	勤労者 (N=854人)
「貧困にある」と思う	0.6%	15.7%	2.9%
「貧困」に近いと思う	4.8%	33.3%	15.0%
そう思わない	89.1%	43.1%	74.0%
わからない	4.8%	6.9%	7.3%
N. A.	0.6%	1.0%	0.8%

表12 将来的に自分や家族が「貧困になる」心配

	援助者 (N=165人)	シングルマザー (N=204人)
非常に心配している	7.9%	40.2%
少し心配である	38.2%	35.8%
あまり心配ではない	37.0%	19.1%
まったく心配していない	16.4%	4.4%
N. A.	0.6%	0.5%

表11 貧困の経験

	援助者 (N=165人)			シングルマザー (N=204人)		
	経験した	経験していない	N. A.	経験した	経験していない	N. A.
ア) ガス・電気・電話料金の滞納	16.4%	80.6%	3.0%	60.8%	35.8%	3.4%
イ) 金銭的理由で医療サービスが受けられなかった	3.6%	92.7%	3.6%	27.0%	68.6%	4.4%
ウ) 十分な食べ物を買うお金がなかった	10.3%	85.5%	4.2%	55.9%	41.2%	2.9%
エ) 住宅ローンの支払いが遅れた	7.3%	89.1%	3.6%	24.0%	70.6%	5.4%
オ) 子どもの学校の経費が払えなかった	7.3%	87.9%	4.8%	41.2%	55.4%	3.4%
カ) クレジットカードの支払いができなかった	11.5%	83.6%	4.8%	52.5%	43.6%	3.9%
キ) アルコール・薬物中毒の問題	0.6%	95.8%	3.6%	9.3%	86.8%	3.9%
ク) 犯罪の被害者となった	1.2%	95.2%	3.6%	14.7%	81.4%	3.9%
ケ) 経済的な問題も原因となって離婚した	5.5%	90.9%	3.6%	60.8%	33.8%	5.4%

ない。

こうした両義的な認識は、貧困を抜け出すための手立てをたずねた項目でも見られた。すなわち、貧困から「はい上がる」ためには、「個人のがんばり」と社会的な「やり直しの機会」の提供のいずれが必要であると回答している(表16)。それに関連し貧困を減らすための責任の所在も、「N. A.」が相対的に高い中で「国などの公的機関」や「企業」に責任があるのと同時に、「貧困当事者」にも

あるとしている(表17)。

さらに貧困の原因を、個々の要因についてずねてみると、先に述べた「総合的要因」と同様に、個人的要因も社会的要因も選択され、全体的には他のグループと同様の傾向を示していた(表18)。なかでも、社会的な要因としての「解雇や長期失業」について高い支持が得られるのは、「自立支援」が要請される近年の援助の中で、シングルマザーを確かな就職へと繋げていくことの難しさを実感

表 13 自分が貧困になったときの気持ち

	援助者 (N=165 人)				シングルマザー (N=204 人)				勤労者 (N=854 人)			
	はい	いいえ	わからない	N. A.	はい	いいえ	わからない	N. A.	はい	いいえ	わからない	N. A.
ア) みじめで恥ずかしくなる	41.2%	32.1%	23.0%	3.6%	43.6%	41.2%	14.7%	0.5%	48.8%	28.5%	21.1%	1.6%
イ) やけになる	13.3%	55.8%	27.3%	3.6%	15.7%	58.8%	24.5%	1.0%	18.3%	57.0%	23.1%	1.6%
ウ) 精神的に落ち込む	68.5%	15.8%	11.5%	4.2%	70.6%	18.6%	9.8%	1.0%	67.8%	17.3%	13.3%	1.5%
エ) 社会をうらむようになる	16.4%	49.7%	30.3%	3.6%	19.1%	53.9%	25.5%	1.5%	29.6%	41.2%	27.3%	1.9%
オ) あきらめずに、はい上がる努力をする	72.1%	3.6%	23.0%	1.2%	74.5%	4.9%	19.6%	1.0%	63.5%	6.3%	29.0%	1.2%
カ) わが子だけは何とかはい上らせたいと思う	72.1%	5.5%	17.0%	5.5%	85.8%	4.4%	8.3%	1.5%	76.7%	5.6%	16.4%	1.3%

◎表 13「その他」の回答

- ・政治に対する不信感がさらに強まると思う。
- ・このような質問を考えたあなたは心の貧困です!!
- ・家族で必ずはい上がる自信はある。
- ・貧困になりたくない!! と思う。
- ・現状に折り合いをつけて、何とか暮らして行きたい。
- ・なさけなくなり、周りに相談するのに時間がかかるかもしれない。
- ・まだ子どもはいませんが、自分自身が立ち直りたいと思うので、子どもに対してもそう思うと思う。
- ・自分自身が原因で「貧困」になることはないと思う。「貧困」を招く原因はやはり国や政府、地方自治体の怠慢さだと思うので、「貧困」になった場合は個人の努力だけでははい上がれないと思う。
- ・人生をあきらめる。
- ・本当にその状況になってみないとわからないと思う。
- ・自分の生活は自分で守り、他人のお世話にならないように生活していくように教えていく。
- ・まずは、その事実を受け入れていく努力をしたいと思います。
- ・相対的貧困として考えてしまうと思われる。
- ・わが子だけでなく、貧困が嫌だと思えば立ち上がるのでは？
- ・計画的に生活したい。
- ・幸せを感じられるようなことを探す。
- ・はい上がる力が必要。その為には助けあえる仲間、家族であることが大切。
- ・劣等感。
- ・現実にもそのようになってみないと分かりません。どれもあてはまるような気がします。
- ・ならないで欲しいが、なったら努力してはい上がって欲しい。
- ・病気、心の貧困はつらい。
- ・貧困と思うのは自分自身の気持ちの持ち方と思う。
- ・現在の社会生活で貧困になるのは戦争以外にないと思う。戦争になるのは自分たちが選んだ政治家に責任がある。選挙というものをもっと身近なこととして深く考えなければいけない。
- ・現実起こったことを受け入れて先の日々を期待しようと。
- ・自分の生き方、子育てを反省し、もう一度やり直す。
- ・“もし”と問われて考えましたが、何だか人事のように思っているように思えました。実感が無いというのが正直なところですが、基本的には落ち込む前に今どうしなければならぬか考えるべき。
- ・自給自足、食べてだけは行ける様にしたい。が、世の中税金等、地域とのかかわり、サービスを受ける為にはお金がなければ受けれない。助け合いではなく支払った人が、支払っただけサービスを受けられるという世の中だと思う。
- ・負け組にはなりたくない（広い意味で）。
- ・できる限りの努力をしていきたいと今は思うが、実際にできるかは不安である。
- ・心さえ貧困にならなければ…と思うが、社会の制度等で「貧困」になるようであればその旨を政府に知ってもらおう努力をしたいと思う。

表 14 貧困の総合的な要因

	援助者 (N=165 人)	シングルマザー (N=204 人)	勤労者 (N=854 人)
その人が不運だったから	1.8%	6.9%	2.9%
その人の頑張りが足りなかったから	15.2%	20.1%	13.0%
社会にたくさんの不公平・不公正があるから	55.8%	54.4%	72.4%
経済発展に伴う避けられない現象だから	19.4%	15.7%	10.5%
N. A.	7.9%	2.9%	1.2%

表 15 最近の日本社会について

	援助者 (N=165 人)	シングルマザー (N=204 人)	勤労者 (N=854 人)
格差が広がっている	64.8%	69.6%	85.6%
格差が小さくなっている	6.7%	4.4%	1.5%
どちらともいえない	26.1%	24.0%	12.1%
N. A.	2.4%	2.0%	0.8%

表 16 貧困から抜け出す方法

	援助者 (N=165 人)				シングルマザー (N=204 人)				勤労者 (N=854 人)			
	そう 思う	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.	そう 思う	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.	「強くそ う思う」 + 「そう 思う」	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.
ア) 結局はその人の頑張りなどの努力が「貧困から抜け出す」方法だ	55.8%	30.3%	13.3%	0.6%	57.8%	24.0%	16.2%	2.0%	63.4%	26.1%	9.4%	1.2%
イ) 結局はその家族や親族が助ける以外に方法はない	12.7%	72.7%	13.9%	0.6%	12.3%	69.6%	15.2%	2.9%	52.2%	36.3%	10.2%	1.3%
ウ) もっとやり直しのできる機会を増やすこと	61.2%	23.6%	14.5%	0.6%	62.3%	16.2%	20.6%	1.0%	63.7%	24.6%	10.4%	1.3%

◎表 16 の欄外記入

- ・ア)：個人の頑張りだけではだめだと思うが、「1 つの方法」だとは思う。
- ・ア)：努力だけではないと思う。政治が悪い！ 昔からの憲法も悪いのは変えるべきだと思う。

表 17 「貧困のない社会」「貧困を減らす社会」のための責任の所在

	援助者 (N=165 人)				シングルマザー (N=204 人)				勤労者 (N=854 人)			
	そう 思う	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.	そう 思う	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.	「強くそ う思う」 + 「そう 思う」	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.
ア) 国、都道府県、市町村などの公的機関	84.2%	3.0%	7.3%	5.5%	89.7%	3.9%	5.4%	1.0%	85.8%	10.3%	2.7%	1.2%
イ) ボランティア団体	18.8%	57.0%	18.8%	5.5%	21.1%	51.0%	26.0%	2.0%	21.9%	64.8%	11.5%	1.9%
ウ) 企業・会社	62.4%	18.2%	14.5%	4.8%	68.1%	15.7%	14.7%	1.5%	73.8%	18.0%	6.3%	1.9%
エ) 労働組合	35.2%	38.2%	20.6%	6.1%	46.6%	23.5%	27.9%	2.0%	55.4%	33.4%	9.6%	1.6%
オ) 宗教団体	4.2%	74.5%	15.2%	6.1%	8.8%	70.6%	19.1%	1.5%	6.1%	80.6%	11.5%	1.9%
カ) 「貧困にある」当事者本人	65.5%	15.8%	15.2%	3.6%	68.1%	10.8%	19.1%	2.0%	71.1%	16.2%	10.7%	2.1%
キ) 他の人や社会が関わるべきでない	6.1%	73.9%	15.2%	4.8%	4.9%	77.5%	15.7%	2.0%	4.0%	82.6%	11.2%	2.2%

しているからであろう。しかし、社会福祉の予算の少なさが貧困の原因になっているという認識は、福祉の現場にいても 3 割程度であり、「先のことを考えない生活」といった個人的要因の項目が支持されている。また、施設における母子世帯を援助していれば、彼女たちの実家の家族資源の弱さは理解しているのではないかと思うが、「親から受け継ぐものがない」ために貧困になるという考えは 1 割も満たない。

(5) 生活保護制度についての評価

ところで、貧困にある人々への国の手立てとして代表的な生活保護制度については、9 割弱の者が、制度の大まかな内容も含めて認知している(表 19)。しかし、制度の「自立」への効果については、

「効果があると同時に依存助長を促している」と評価している(表 20)。さらに制度利用については、濫救に対する評価はシングルマザーと同程度であるが、漏救に対しては、シングルマザーよりも少なく 45.5%となっている(表 21)。

また自由記載では、生活保護受給者に対する具体的な批判や当惑の意見が書かれていた。

- ・生活保護の知人がいますが、子ども 4 人に対し受給額が相当あったり、母子家庭の親子は、家がないものがないくらい物質面において贅沢していたり、病院に頻繁に行って高い治療費がただだったり…。
- ・各家庭の生活基準がわかりません。生活保護を受けていても、ブランドのバッグを持っていた

表 18 貧困になる要因

	援助者 (N=165 人)				シングルマザー (N=204 人)				勤労者 (N=854 人)			
	そう 思う	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.	そう 思う	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.	「強くそ う思う」 + 「そう 思う」	そうは 思わな い	わか らな い	N. A.
ア) 社会福祉予算が少ないため	32.1%	51.5%	13.3%	3.0%	50.5%	26.5%	21.1%	2.0%	60.4%	28.7%	9.5%	1.4%
イ) とおり近所が無関心なため	23.6%	60.6%	13.9%	1.8%	23.5%	58.8%	15.7%	2.0%	31.9%	56.1%	10.3%	1.8%
ウ) 大きな病気やけがのため	35.8%	47.9%	13.9%	2.4%	37.3%	38.7%	21.6%	2.5%	43.8%	43.8%	11.1%	1.3%
エ) 家族のきずなが弱い ため	39.4%	43.0%	15.8%	1.8%	32.8%	50.0%	15.7%	1.5%	40.8%	47.5%	10.2%	1.4%
オ) 親から受け継ぐもの がないため	8.5%	83.0%	7.3%	1.2%	19.1%	67.2%	12.3%	1.5%	13.4%	79.7%	5.6%	1.3%
カ) 社会の助け合いの不足 のため	43.6%	38.8%	15.8%	1.8%	46.1%	35.3%	17.6%	1.0%	53.3%	35.1%	10.3%	1.3%
キ) アルコール中毒や薬 物の乱用のため	35.8%	44.8%	17.6%	1.8%	25.5%	42.2%	29.9%	2.5%	28.7%	57.1%	12.8%	1.4%
ク) 解雇や長期失業のため	72.7%	14.5%	11.5%	1.2%	67.2%	16.2%	15.7%	1.0%	81.0%	13.1%	4.8%	1.1%
ケ) 地域の産業の衰退の ため	58.2%	22.4%	17.6%	1.8%	55.4%	19.6%	23.0%	2.0%	73.9%	17.0%	8.1%	1.1%
コ) 先のことを考えない 生活を送るため	66.1%	21.8%	10.9%	1.2%	65.2%	20.6%	13.2%	1.0%	61.9%	27.5%	9.6%	1.1%
サ) 十分な教育を受けて いないため	26.1%	58.8%	13.9%	1.2%	22.1%	59.3%	17.6%	1.0%	32.2%	57.6%	9.0%	1.2%
シ) やる気のなさや頑張 り不足のため	55.2%	29.1%	13.9%	1.8%	57.8%	27.5%	13.2%	1.5%	53.0%	34.4%	11.6%	1.1%
ス) その家に子どもが多 いため	7.3%	82.4%	9.1%	1.2%	12.7%	69.6%	16.2%	1.5%	6.8%	86.5%	5.6%	1.1%
セ) 外国人の不法な滞在 による	9.7%	55.8%	30.9%	3.6%	14.2%	52.9%	32.4%	0.5%	9.9%	73.1%	15.9%	1.2%

◎表 18「その他」の回答

- ・政治に問題あり。
- ・要因は様々だと思う。その人のとらえ方、生き方で一般的要因があっても、貧困とはならない。
- ・外国人による犯罪に腹を立てている。
- ・上がり続ける税金のため。膨大な赤字国債のため。国家公務員の高い給料。
- ・夫の両親が他界しており、妹 2 人、自分の子をやしない、家のローンを払う生活がとても大変なうえに、子どもを育てる時間と仕事の両立がむずかしく、良い仕事の再就職がとても大変だった。家族の協力がないと収入はふえない。お金がないと本当にみじめでな
さけない。お金ではないと言うが、日本は必要な現金が多すぎるのでは。
- ・自分たちの社会をよりよくするために、社会全体で考えていけたらと思う。

表 19 「生活保護制度」の存在

	援助者 (N=165 人)	シングルマザー (N=204 人)	勤労者 (N=854 人)
ことばも内容もよく知っ ている	32.7%	32.8%	9.6%
ことばも内容もある程度 知っている	56.4%	43.1%	48.4%
内容はほとんど知らない がことばは知っている	6.1%	19.1%	38.9%
まったく知らない	1.2%	2.9%	1.8%
N. A.	3.6%	2.0%	1.4%

表 20 生活保護制度の「自立」への効果

	援助者 (N=165 人)	シングルマザー (N=204 人)	勤労者 (N=854 人)
効果がある制度だ	9.7%	18.6%	7.6%
依存精神を助長してい る制度だ	18.2%	24.5%	19.8%
効果と同時に依存精神 も助長している制度だ	60.6%	35.8%	45.4%
わからない	6.7%	18.6%	25.8%
N. A.	4.8%	2.5%	1.4%

表 21 生活保護制度の利用について

	援助者 (N=165 人)				シングルマザー (N=204 人)			
	はい	いいえ	わからない	N. A.	はい	いいえ	わからない	N. A.
ア) 必要な人々に利用されている	35.2%	33.3%	23.6%	7.9%	32.8%	38.7%	23.0%	5.4%
イ) 必要なのに利用できない人が多い	45.5%	19.4%	26.7%	8.5%	67.6%	6.9%	21.1%	4.4%
ウ) 必要でないのに利用している人が多い	62.4%	6.7%	24.2%	6.7%	64.2%	4.9%	25.5%	5.4%

※「勤労者」へのアンケートでは、設問の仕方が異なっているため掲載していない

◎表 21 の欄外記入

- ・ウ)：働くことができて、生保を受けることにより、働く収入がふえ、生保のお金が減ると考えている人もでてくる。病気へ逃げる場合もある。
- ・申請する時には、確かに必要でしたのかも知れないが、そのうち、生保にどっぷりつかってしまい、働くい力をなくしてしまう人が多いと思う。見直しや、期限をつけるといった方法も良いのでは？
- ・イ) とウ)：多いかはわからないが思う。
- ・イ) とウ) に関しては利用できない人はいると思うが特に多いとは思わない。

り、頻繁に外食に行く人を見ているので、今の世の中、貧困な人がいるのかな～と思います。

- ・今の時代は稼働すれば生活可能であると思います。福祉制度がありすぎてそこからぬけ出そうとしない、また、頼りっぱなしで努力がない etc…。ひとりひとりが、がんばる気持で生きてほしいと、…生きたいと思うばかりである。

3. 「貧困」ということばと「貧困観」調査について

最後に、この調査全体を通しての意見についてみれば、そもそも「貧困」という言葉に対する違和感が、どのグループよりも強く感じており（表 22）、自由回答からも、援助者の貧困観は「貧困が遠い」「貧困がわかりにくい」だけでなく、貧困ということばを使う事への怒り、貧困への嫌悪感といった様子が見られ、この調査への批判も強かった。調査全体を通して、他のグループよりも「わからない」や「無回答」の割合が高かったのも、この貧困への違和感に関連しているであろう。

◎「貧困」・「貧困観」についての自由解答

- ・生活については、自分の力ではどうしようもなかった事情（例えば金銭的余裕がない為、能力があるのに十分な教育を受けられなかった等）で、学歴社会からはじき出された結果の貧困が考えられるので、表 7 の生活（「ア」～「シ」）に

ついては、違和感を感じなかった。しかし、学業・仕事・社会関係については、自分自身の自覚のなさが原因であり、あえて「貧困」というならば「心の貧困」ということばが私にはしっくりきます。

- ・昭和 40 年代～50 年代にかけて、まじめに働くことによって賃金を得、住宅、生活必需品がそろったが、高度成長期を終え現在において貧困という言葉を意識させられる。種々の格差が社会全体に浸透してきている。これからの世代への不安が強く感じられる。
- ・バカにしてるんですか？ あなたは貧困じゃないんですか？ あなたは心の病気です！ 是非、メンタルクリニックへ！ 直接話しませんか？ 明るい心を教えます。
- ・貧困という言葉について、現代社会ではおかしいと思う。
- ・貧困にはなりません！
- ・貧困という言葉の中には、経済的に生活してい

表 22 「貧困」ということばへの違和感

	援助者 (N=165 人)	シングルマザー (N=204 人)	勤労者 (N=854 人)
感じた	64.2%	58.3%	50.2%
感じなかった	32.1%	36.8%	48.5%
N. A.	3.6%	4.9%	1.3%

く上で苦しいという意味合いが、重いが、その度合いがわからないと言うのが、正直な所です。

- ・質問が最低。本当の貧困者をバカにしている。けっきょく自分の論文に使うための資料にすぎず、本当に考えていない。おわってる。
- ・お金の使い方の基準がズレてる人もいるので、貧困の2文字で表現していいのか？と思う。
- ・言ってる意味がわからない！
- ・本当の意味での貧困という言葉は、今の時代ではそぐわぬと思います？
- ・私たちの年代は貧困は経済的な部分だけのイメージがあり、あまりよい感じをうけないため。
- ・「貧困」という言葉をあまり使わないので、違和感を感じた。“貧乏”とか“乏しい”とかの方が聞き慣れている。
- ・今まで貧困というと、ただ単にお金がなく生活が困難な状況という考えだったので、今回のアンケートで社会的つながりや地位について聞かれたので、少し驚きました。
- ・貧困って何？ はぁ？
- ・“貧困”はマイナスのイメージがあり、差別用語としてとらえてしまう。
- ・持ち家一戸建てで車を持ち、ペット（猫と犬）がいて、子供にスポーツをさせている自分ですが、いつも「十分」なお金があるわけじゃない。家族が仲良く、楽しく過ごして笑いがありますが、ローンはたくさんある。何を持って貧困というのか分かりません。ユニセフの活動のHPや本を読んでいるので、飲み水も、信用できる大人もいない子供たちを考えると、今の日本での貧困とは…？
- ・「貧困」には経済的貧困と精神的貧困の両方があると思うので、複雑な気持ちで回答しました。
- ・貧困はいない！
- ・日本のこととして考えると、戦前の「貧困」、敗戦直後の「貧困」、今現在の「貧困」は「貧困」の内容や、何を基準に貧困というのかが違うような感じがする。このアンケートでの“貧困”は、私が思う貧困とは違っていた。戦時中の苦しい時代を精一杯生き抜いてきた方々にとって

は、現代の貧困は、本当の意味での“貧困”ではないと思う。

- ・日常生活で貧困という言葉が使われることがまれであり、生活苦の人が「貧しい」と答えても「貧困」と答える人がいるのか不明。
- ・経済面、精神面の両方があると思う所。
- ・アンケートに答えているうちに、どういうことが貧困なのかわからなくなりそうです。それは本当に自分も困ったとか、困った人を見た事がないからでしょうか…。
- ・格差社会と謳われている現代社会に於いて、貧困という「ことば」の響き、ニュアンスといったものが、何かを改善していこう、努力をしていこうとする意思をつぶしてしまいそうに感じられました。
- ・今まで貧困ということばの漠然とした意味しか考えたことがなかったのですが、さまざまな場面で貧困ということばをあてはめてみると、それがどうなのか、はっきりと判断することが難しかったです。
- ・貧困で分けられない部分もあるから。
- ・「貧困」という言葉が強調された感じが嫌だった。経済面で裕福でなければ“貧困”という感じもする。別の言葉で考えられたら…とも思った。“貧困”という言葉は何か嫌だが、生きていく中で、心（考え方・精神面）・体力がマイナスになれば貧しいのと同じと思う。障害を持っているが、その人の考え・精神力・体力・気力などプラスに思う事が大事と思う。次につながると思う。違和感とはズレるかもしれないが、そう感じた。
- ・貧困のとらえかたは、年代によって違うと思います。少年時代、まきと井戸水にて生活したことから、今回のアンケートは現在の生活重点からとらえているので、違和感を感じます。
- ・お金がなくても心豊かに生活している人がいると思う。
- ・何を貧困というのかが明確でないため、答えに困ることがあった。身近に感じられないこともあると思う。また、経済的に貧しいかどうかは

一番のベースになっているように思うものの、サービス等をうけることができたり、貧しくても日々の生活を笑顔で暮らしている人たちには、あまりしっくりこない感じがする。最近ブームになっていた『がばいばあちゃん』が、貧困だけれど貧困でない、というような微妙な感じがします。

- ・あまり日常的に使わないことばです。経済的に？ 精神的に？ 解答に悩みました。
- ・自分の収入以外の生活をしようとして、生活が行き詰まる状況が多く見られる事が多いのであって、今のどのような状況を見てのアンケートなのかなと思いました。ただ、発展途上国においては日本の戦後といった状況が見えるので、貧困があるのではないのでしょうか。子どもの頃に、米が買えなくてうどんを食べたり、じゃがいもを食べた思いはあります。だから、その生活をしない為に今、前向きに生活することを心がけています。
- ・あまりよい言葉ではないと思いました。不快でした。
- ・貧困を身近に感じます。私達、親の世代は年金額が減らされても暮らしていけると思います。子は派遣社員やアルバイトなど、身分の不安定な職業にしか就けない場合、今流行しているワーキングプアになるのではと思うと、とても心配です。
- ・貧困って何!? 貧困に定義づけるのは難しいと思う。
- ・貧困の意味が多様化となっていることが、設問の意味合いをうまく感じとることが難しかった。
- ・差別する言葉のように感じた。
- ・よく聞き慣れたはずの言葉だと思っていたが、改めてアンケートに記入する上で、意味などを考えると、あまりはっきりとわからないことを感じた。色々な場面で用いる言葉なせいか、「貧困」という言葉について自分の中で、あまりハッキリしたイメージが無い事を感じた。
- ・障害があるから貧困だとかは思わないですし、

その質問項目に違和感を感じました。

- ・普段ほとんど使わない…というか思うこともない言葉でした。「貧乏」は時々使うけど、どちらにしてもいい言葉ではないですね。
- ・このアンケートの貧困は金銭的な貧困ばかりを聞いている。でも、今の日本の貧困の問題は心の貧困の方が大きいように思う。
- ・貧困という言葉は自分自身、自分の生き方、家族を否定されているようで嫌な印象をうける。
- ・現実的な仕事をしているためか、貧困の概念がどうしても??的貧困に比重があるように思うが、「貧しさ」という概念で考えるとまたちがった意見になってしまう項目が多かった。「心の貧困」「心の貧しさ」が最近気になってしょうがない。
- ・個々の価値感が違う様に、それぞれだと思うので、貧困のとらえ方に違いがあると思います。
- ・何をもって貧困とするのかよく分からない。生活水準は？
- ・表面的な事より、心の貧しさが気になります。自己主張の強さ、他の人はどうでも良いと思う気持ちなど…。道徳感の貧困など。
- ・私自身、余り口にしたくない言葉だと思っています。まずしくても、家族の心が暖かいものでむすばれている場合は貧困とは言われないのではないのでしょうか。
- ・貧困て何？
- ・貧困についてはこれと言って意識した事がなかった。食べ物も食べれて、必要な物がある世の中のため、貧困に対しての意識がない。ただ、世代の違いで、豊かさの物が違うのでないかと考える。貯金等ほとんどない為、これもまた貧困でないかと考える。
- ・貧困には経済的・精神的・社会的貧困があると思う。経済的には自分個人の努力と社会責任があると思うし、精神的には教育の受け方、家庭での育ち方があると思う。社会的には行政の判断があると思う。外から貧困を強いられる場合と自分から貧困に向かっている場合（選んで）があると思う。問いの貧困と答えの貧困に差が

- あるように思われる。
- ・あまり聞きたくない言葉だった。
- ・現在は自分が貧困と感じている人はいない世の中になったのではないのでしょうか。お金がなければサラ金へ行けばよい、今現実に困っていても携帯・車・生活のレベルを下げることはできないと感じている人が多くなりました。小さい時から生活そのものを営みを保つための適応力が欠けているのではないのでしょうか、今の世代は？
- ・どこが貧困のボーダーラインか分からないし、本人がお金がなくても幸せと感じていたら貧困だとも思わない。貧困を判断するのは本人である。
- ・貧困のとらえ方が難しいと思った。他人からみて貧困のように感じる生活でも当の本人は感じてないかもしれないこともあると思う。
- ・経済的な貧困もだが、心の貧困もある。経済的な面に目を向けたが、難しい問題である。
- ・「貧困」と言う意味じたい差別しているようで気に入らない。
- ・物質的貧困と精神的貧困の区別が明らかでない設問のゆえに違和感を感じた。
- ・貧困という言葉の持つ意味の広さ、深さがあり、解答が難しい。
- ・貧困と感じる点が、その視点により変わり、難しいなと思いました。
- ・このアンケートの質問を通して「貧困」とは何か逆に分からなくなった。(考えさせられた)。
- ・貧困って何？と、あらためて考えさせられ混乱した。
- ・貧困と言う言葉は、相手を見下したような差別的要素が感じられる。が、実際、社会の中には貧困（困窮）状態にある人がいる事は事実。
- ・ワーキングプアと意味が少しちがうので、ピンとこない感じ。

- ・貧困はどこからどこまでのものなのかははっきりわからない。本人自身が幸せであると感じればそうだと思うし、他人が決めるものでないと思う。
- ・「貧困」ということばは、とても幅広く、実際何を基準に「貧困」というのか、意識の差によっても違いますし、考える点は多いと思います。
- ・「貧困」という言葉は、本当に深い言葉であると感じました。そして、心の貧しさということもさることながら、社会の制度、政策による貧しさというものを強く感じる事が出来、自分自身、「貧困」ということを考えるよい機会を与えて下さったことに感謝します。ありがとうございました。

引用文献

- 青木紀（2006）「現代日本の『貧困観』に関するアンケート結果中間報告」『教育福祉研究』12、71-122。
- 青木紀（2007a）「社会意識：現代日本の貧困観—相対的貧困像の対置」青木紀・杉村宏編『現代の貧困と不平等 日本・アメリカの現実と反貧困戦略』明石書店、194-209。
- 青木紀（2007b）「現代日本の『貧困観』に関するアンケート結果報告(2)」『教育福祉研究』13、49-74。
- 岩田美香（2007a）「シングルマザーの『貧困観』—母子生活支援施設利用者への調査結果報告」『教育福祉研究』13、75-90。
- 岩田美香（2007b）「当事者意識：貧困当事者とは誰か？—母子世帯への調査から」青木・杉村編『前掲書』、210-228。
- 岩田美香（2007c）「周辺化される貧困—母子世帯における貧困問題をめぐって—」『総合社会福祉研究』31、48-57。

（北海道大学大学院教育学研究院・准教授）